

令和5年度

教科書調査研究報告書

小学校

図画工作

富士地区教科用図書採択連絡協議会

富士地区教科書研究委員会

I 調査研究対象教科書

| 発行者 | 書名 | 学年 |
|------------|-------------|------|
| 9 開隆堂 | ずがこうさく 図画工作 | 1～6年 |
| 116 日本文教出版 | ずがこうさく 図画工作 | 1～6年 |

II 調査研究の観点

1 内容

- (1) 児童が自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くような、表現及び鑑賞の題材になっているか。材料・用具などの基本的な扱いを理解し、表現方法を工夫して表すことができるように配慮されているか。
- (2) 児童が自ら表したいことを見付け、豊かに発想や構想を練り、身近な作品や生活の中の造形などに対する自分の見方や感じ方を広げたり深めたりすることができるような内容になっているか。
- (3) 生活や社会の中の形や色などに関わり、児童がつくりだす喜びを味わいながら、感性を育むことができる内容になっているか。

2 組織・配列・分量

- (1) 題材が系統的・発展的に組織されるとともに、他教科等との関連について配慮されているか。
- (2) 全体の分量及び各領域の内容の分量、配分は適切であるか。題材内における情報の提示の仕方が効果的であるか。

3 児童の発達段階への配慮

- (1) 児童が見通しをもったり、振り返ったりしながら、主体的に表現及び鑑賞の活動に取り組めるように配慮されているか。
- (2) 発達の段階を踏まえた材料・用具の取扱いや、安全・事故防止に対して、児童が分かるように適切な配慮がされているか。

別紙様式 2

| | |
|-----|------|
| 種目名 | 図画工作 |
|-----|------|

| 発行者 番号 | 教科書名 | 調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮) |
|-----------|---|--|
| 略 称 | | |
| 9 開隆堂 | わくわくするね ずがこうさく 1・2上 みつけたよ ずがこうさく 1・2下 できたらいいな 図画工作 3・4上 力を合わせて 図画工作 3・4下 心をひらいて 5・6上 つながる思い 5・6下 | <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の巻頭ページに作家から児童へのメッセージが作家の造形表現中の写真とともに掲載され、児童の造形活動への期待感やあこがれの気持ちが高まると思われる。 ・見開きで一つの題材を扱っていて、児童の思考の流れに沿った構成となっているため、見通しがもちやすい。また、吹き出しの児童の言葉により、見方・考え方をもとにした材料の選び方や発想や構想の手がかりとなっている。 ・3つの資質・能力を「学習のめあて」とし、児童に親しみやすいキャラクターマークとして表示したり、内容も端的で児童に伝わりやすい書き方をしたりしているため、児童が目的をもって造形表現に取り組むことができる。さらに、作品の紹介では、作品名だけでなく、作者の思いや表現の工夫などが掲載されており、発想や表現方法を広げたり、表現する楽しさを感じ取ったりすることができる。 ・立体や工作では、作り方の手順や製作過程が写真等で分かりやすく掲載されており、どの子も基本的な作り方を自分で学びながら主体的に学習する手立てとなっている。 ・地域の美術館の紹介や芸術家の作品、伝統文化・工芸などの作品、海外の児童の作品など幅広く掲載されており、表現と鑑賞の一体化を図りながら自分の見方・考え方を深められるような工夫がされている。 <p><組織、配列、分量></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一学年で扱う題材の数が多く、児童の実態や学校や地域の実情によって題材を選ぶなど、軽重がつけられる。 ・「あわせて学ぼう」というコーナーを設け、他教科や学校生活と繋がる例が具体的に書かれており、カリキュラム・マネジメントの具現化の手掛かりにしやすい。 ・3年生以上の巻末の『つながる造形』では、図画工作がどのように他分野や地域・社会等と関わるか、発達段階に応じて紹介されており、自分たちの生活や暮らしを豊かにしていると感じられる構成になっている。その中で、SDGs やユニバーサルデザインにも触れられている。 ・同じ材料で「造形あそび」と「絵や立体、工作に表す」題材が紹介されており、2つの側面から児童の資質、能力を育成されるよう |

| | |
|--|--|
| | <p>配慮されている。また、授業者も、2つの内容の違いを理解しやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園での活動を想起するメッセージや写真が紹介されていたり、小学校の図画工作で学習したことが中学美術や社会生活でどのように役立つのか掲載されたりするなど、園小中の円滑な連続性に配慮している。 <hr/> <p><児童の発達段階への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻末の『学びの資料』では、用具の使い方や様々な表現方法、安全への配慮等が丁寧に掲載されている。QRコードが各ページについており、さらに詳しく動画でも繰り返し視聴できるため、児童の理解を深めることができる。また、児童が家庭でも利用できるなど、ICTの活用を図ることができる。 ・題材ごとに重点的に取り組む資質・能力に応じたキャラクターマークの吹き出しの言葉が、題材の目標に沿った具体的で発達段階に合わせた言葉がけとなっているため、児童の発想を広げたり主体的に造形活動に取り組んだりする支援となっている。また、振り返りも呼応しているため、自分なりの学びの実感が得やすい。 <hr/> <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての題材において学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善ができるようになっている。また、学習のめあてが児童にも分かりやすく載せられ、3つの資質・能力の育成が図られるように配慮されている。各題材で重点的に高めたい資質について吹き出しの声掛けや振り返りのコーナーがあり、自分なりの学びの実感が得られやすい。 ・「あわせて学ぼう」では、他教科や学校生活と関連させながら豊かな学習となるよう具体例が紹介されている。授業者にとってカリキュラム・マネジメントの具現化の手掛かりにしやすい。 ・作品例に作品名だけでなく、作者の思いや表現の工夫などが掲載されており、発想や表現方法のヒントとなったり、楽しさを感じ取ったりすることができる。 |
|--|--|

別紙様式 2

| | |
|-----|------|
| 種目名 | 図画工作 |
|-----|------|

| 発行者 番号 | 教科書名 | 調査・研究結果 |
|-----------|--|---|
| 略 称 | | (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮) |
| 116 日文 | まるごとた のしもう ずがこうさ く 1・2上下 ためす見 つけ る 図画工作 3・4上下 わたしとひ びき合 う 図画工作 5・6上下 | <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてとして、3つの資質をマークとともに示されており、児童が目的をもって取り組みやすい。作品に対する作者の吹き出しの言葉やめあてのヒント、鑑賞のヒントなどから児童が表現の思いや見通しをもちやすい。 ・児童が実際に製作する様子や作品がより多く掲載されているため、表現意欲が高まる内容になっている。体全体を使って表現している姿や真剣に試行錯誤する姿、友人と対話したり協働したりする姿、また児童の生き生きとした表情などから、写真を見た児童の好奇心を引き出し、「やってみたい」と思わせる構成となっている。 ・各学年に「教科書美術館」や「図工のみかた」「広がる図工」など、図画工作をもっと楽しむためのコーナーが数多く掲載されており、児童の感性を高め、身近な作品や生活、自然の中の造形に対する見方・考え方が広がる構成となっている。 ・材料の様々な使い方や技法を生かした題材設定がされ、素材の特徴や良さを生かしながら創造的に表現する力を伸ばしていけるよう工夫されている。また、様々な表現方法を選択できるような用具や技法、作品が多く紹介され、児童が主体的に表現方法を工夫できるような非常に配慮されている。 ・地域の美術館の紹介や芸術家の作品、伝統文化・工芸などの作品、海外の児童の作品など幅広く掲載されており、表現と鑑賞の一体化を図りながら自分の見方・考え方を深められるような工夫がされている。 <p><組織、配列、分量></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一学年で扱う題材の数が多く、児童の実態や学校や地域の実情によって題材を選ぶなど、軽重がつけられる。また、見開き2ページを使い材料や造形活動の魅力を鑑賞することによって伝え、児童の創作意欲を高め、見方・考え方を広げる手立てとなっている。 ・造形あそび、絵、立体、工作などの分量が適切である。特に、どの題材でも表現と一体的に捉えられるよう鑑賞の活動とセットにすることにより、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めることができるような工夫がされている。授業者も単元構想や授業の展開の工夫に役立てることができる。 |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 6年間を通して、同じ材料や用具に繰り返し関わることで、体験や学習したことを生かしながら発達段階に合わせて系統的発展的に表現を楽しんだり、その特徴や良さを理解しながら造形活動に取り組んだりすることができるなど、3つ資質・能力を積み重ねて高めることにつながるよう構成されている。 ・ 同一題材の中でも、屋内と野外での活動や展示の仕方が紹介されているため、環境を生かした造形活動や学校や児童の実態に即して選択できるなどの工夫がされている。 <p><児童の発達段階への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末の『材料と用具のひきだし』では、用具の使い方や様々な表現方法、安全への配慮などについて、吹き出しにポイントを示したり、「わざのひきだし」技法による様々な表現方法を紹介したりするなど大変丁寧に掲載されている。QRコードが各ページについており、さらに詳しく動画でも繰り返し視聴できるため、児童の理解を深めることができる。また、児童が家庭でも利用できるなど、ICTの活用を図ることができる。 ・ 絵、立体、工作だけでなく造形あそびも学びの視点を変えながら段階的に行えるよう工夫されている。 ・ どの学年の教科書にも巻末に『アート・カードを楽しもう』があり、児童の発達段階に応じた活用方法がわかりやすく書かれている。 <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領の趣旨を踏まえ、すべての題材において「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善ができるようになっている。また、個別最適な学習に呼応して、その内容のページだけでなく巻末や動画等を活用しながら発達段階に応じた用具の使い方や表現技法を参考に学びを探究することができる。 ・ 体全体を使って表現している姿や真剣に試行錯誤する姿、友人と対話したり協働したりする姿、また児童の表情など非常に生き生きとした写真が掲載しており、児童の好奇心を引き出し、「やってみよう」と思わせる構成となっている。 ・ すべての題材で鑑賞と表現の一体化が図られたり、生活の中の造形や自然、美術作品などが多く掲載されたりするなど、造形的な見方・考え方を広げる工夫がされている。 |
|--|---|